

2024年4月1日付で、兵庫県立人と自然の博物館（ひとはく）の第5代館長に就任しました村上哲明です。私は、兵庫県宝塚市で生まれ育ちました。子どもの頃から身近な環境で、様々な野生生物に触れ、その生命の不思議さに魅了されました。この幼少期の興味が私の生物学者としての道を拓きました。私の専門はシダ植物の植物分類学ですが、伝統的な分類学にとどまらず、DNAの情報を最大限に駆使してシダ植物の多様性と進化を研究してきました。この研究の成果として、外見からは全く判別できない新種のシダ植物を多数発見するなど、新たな知見を積み重ねてきました(写真1)。

一方で、私は38年間、大学教員として植物系統分類学研究室でDNA情報を活用した被子植物(花を咲かせる植物)やキノコ類の多様性についての研究を学生と共に進めてきました。兵庫県との関連で特に興味深い研究成果が得られたのは、日本列島の分子植物地理学的研究です。日本各地の野生植物のDNAを比較することで、同じ種(しゅ)であっても東日本と西日本で遺伝的な違いが見られるのが一般的であることが明らかになりました。そして驚くべきことに、その遺伝的な境界がしばしば兵庫県付近にあることが判明しました(写真2)。

兵庫県は、気温や降水量などの個別の環境要因では隣接する府県と大差ないにも関わらず、複数の環境要因を総合すると広葉樹林が生育しにくい環境が広がっていることを示唆する研究結果も得られています。これが多くの日本産樹木種の遺伝的な境界地域が兵庫県付近にある理由の一つと考えられますが、さらに研究を進める必要があります。

同じ種でも、遺伝的に異なる生物を人間が移動させると遺伝子が混ざってしまい、遺伝子汚染などの問題を引き起こすことがあります。兵庫県では、同じ植物種でも遺伝的に異なる個体が近くに生育していることがよくありますから、野生の木を人為的に植える時などには特に気をつけなければいけません。私たちの基礎研究の成果は、地域の野生動物の多様性を守るのにも役立ちます。今後も地域の自然に関するさまざまな研究を行い、その成果をもとに展示や保全活動を行っていきたくと考えています。

館長 村上 哲明



写真1 熱帯域に広く1種が生育していると考えられていたが、DNAを調べることで50以上の種が含まれていることがわかったシマオオタニワタリ

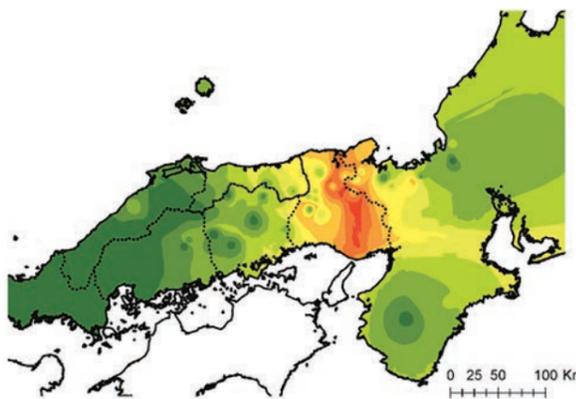


写真2 同じ樹木種の東日本型と西日本型の分布境界(赤色でしめされている)

企画展  
クモ展

多様な8本脚たちの世界

